壽 歡賀

九皐

十一壽

かくましゝ野姫の花しめや月夜かな　相州厚木　玉珂
ちりけ姫や萬歳の二葉より露白ふ　、四川
いちつまや一ふゆみ見ゆる二三本人　、九皐
いちんまや爪ぬけす人を追ふらし　上總クルリ　亀玉
ちんあきやいつも茶かふの川ちかへ　、歡賀
いちつまい螢を消してきゆる　、一壺
稲妻やる丸ん雲より出てあるく　八戸山　總人
ちんあきや丹維うずす水ゑまう　沼上　志孝
いちんまやその萬し人ハ野ふもとう　坂戸　了成
姫ハ包しほくらう露うきてくる世哉　上毛奏丘　東昌
紫陽花のちふくゆしも姫やそら　、サワイ　一瓢
いちつまや戸口むきあふくら家　、弓霧
稲妻や舟かるのるまりとする馬の尿　、荒牧　第水
いちんまの一同のうもの姫やすゞの風　沼田　吟年
臼杵やしまつて姿なや之をのあき　、是什
郡うやしそんあきそ笋ふるふちらか　、宮サキ　布明
いちつまにゆくろしし一筆の風ふきき哉　、宇一
いちんまも毎まり茶すゞや宇都の山　、南牧　許径
いちつまや坤水ひきし砂にそ　、高サキ　鉢水
いち包待るや萬雀さふく雪月の宿　、新町　具溪
織姫のさかさ吹くる間のいちんまゝの　、指安
いちつまや庁管舟のかくあくの舟　、大ちこ　栄坊
いちつまのえうりと葛の葉ふく哉　、前ハシ　一山
稲妻の篠を透すふも家の乳　下野足利　こころ流
いちんまの郡ふりあらす月夜哉　、猿田　湖水
いちつまや門田見あやく雑のしる　近江　幸泉
あらきふ野や熊海のゆらし潮哉　奥白川　芳之
出乃としてろきほふ答しくさのあき　信州中ごく　道義
野行きふゆやいのこ草をも姫ハ幸姫　、ウルシド　其尹
いちつまや落しさうらを一きつま州　、醉月
いちつかアリまくぐ練つゝの野きの渡る鳥　、上田　玄悟
宿の姫胡瓜の臺しも虫ぞなる　、市仙
さんあきや山の新ますすかくし汁　、如毛
望むとへをとハ姫さん稲そうみ　、象希
いちつまや垣ち干しふ夜の衣　、柿下
稲妻を砕くち衛ちや千曲川　、雲帯
いちつまも蛸包子ふゆの一姫の風　江戸　椅女
莫ち喰し虫も鳴うと宮朝の姫　、文路
いちんまたうき圍まもる小むろ哉　、德雪
知らき花まて老のちかり合鈴のあき　撰者　金令